

# 独歩の森ニュース

武蔵野の森を育てる会

Eメール: info.mnomori@gmail.com

ホームページ: <http://mnomori.web.fc2.com/> (2015年6月発行)

会報 第9号

## 雑木林の見学会を行いました

独歩の森は、江戸時代からあると考えられている雑木林です。昔の雑木林の利用を学ぶとともに、現代における再生のあり方を考えるため、埼玉県所沢市のくぬぎ山自然再生計画地、同県入間郡三芳町の三富新田を見学しました。

(2014年11月30日、2面参照)



くぬぎ山自然再生計画地を見学する参加者

## 里山の講演会を開きました



里山の魅力について語る講師の小野泰洋氏

NHK「ニッポンの里山」プロデューサーの小野泰洋氏を講師に招き、講演会「日本の里山の魅力と可能性～『独歩の森』を未来へつなぐために～」を開催しました。142名もの方々に参加していただき、活気ある集いとなりました。

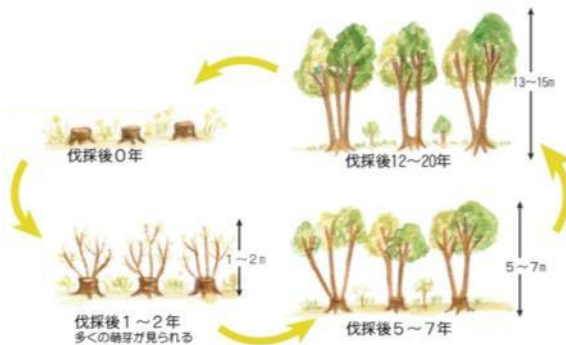
(2015年2月11日、3面参照)

平成26年11月30日、埼玉県所沢市のくぬぎ山自然再生計画地、同県入間郡三芳町の三富新田（地割跡及び古民家（旧島田家））を見学しました。

## くぬぎ山自然再生計画地

市民団体「おおたかの森トラスト」代表の足立圭子さんの案内により、雑木林の再生の様子を見学しました。ここでは、大木化した樹木をすべて伐採（皆伐）し、かつての雑木林で行われていた萌芽更新（下図参照）を試みています。

切株からの萌芽や種子からの発芽（実生）が育ち、生物多様性の高い豊かな自然が戻りつつある様子が見られました。



資料：環境省『里地里山保全再生計画作成の手引き』（平成20年）より転載

## 三富新田

江戸時代中期、川越藩主の柳沢吉保により新田開発が行われ、上富村、中富村、下富村の山村からなる三富新田ができあがりました。これは、ススキ野原だった広大な台地を、間口40間（約72m）、奥行375間（約675m）の短冊状に区画し、道路に近いほうから順に屋敷地、耕地（畑）、雑木林を整備したものです。これを地割といいます。屋敷地と雑木林の樹木は、すべて植林したものです。

このような地割で整備した新田開発は、五日市街道沿いの現武蔵野市内でも行われ、地割のモデル図は、吉祥寺東町の宮本小路公園にも掲示されています。

**萌芽更新とは**…雑木林の木は定期的（7～20年ごと）に燃料として伐採され、そのあと切株から出る萌芽を育てるという循環で維持されてきました。これを萌芽更新といいます。



現在にも残る地割の風景。手前が耕地で短冊状に区切られている様子が見える、向こうが雑木林。江戸時代から続く武蔵野台地の里山の様子が見られる貴重な風景。





# 日本の里山の魅力と可能性

～「独歩の森」を未来へつなぐために～

平成27年2月11日、NHK「ニッポンの里山」プロデューサーの小野泰洋氏を講師に招き、標記の講演会を開催しました。142名の方々に参加していただき、活気ある集いとなりました。（この頁の写真は、小野泰洋氏提供）

## 講師のお話より(1)「里山とは何か？」

里山とは、人が利用するために、人の手で保っている多様な生態系のパッチワークで、そこには人と自然の共生の知恵がある。

そのような里山の果たしている役割としては、生物多様性の維持、国土の保全や災害の防止、安心・安全な食物の産出(ホンモノの産物)、景観の保全などがある。

里山は、単なる生産の場ではなく、人の暮らしが自然を維持しているということが大切なこと。人が手を入れて、適度に攪乱しながら維持しているのが里山。人が手を入れなくなると、単調な生態系になってしまうことがある。雑木林としての独歩の森も、かつては萌芽更新などによる攪乱が行われていた。



萌芽更新によって芽を出したクヌギ  
(大分県国東半島)



飯豊町の屋敷林



十日町市星峠の棚田

## 講師のお話より(2)「雑木林の萌芽更新」

大分県の国東地方では、クヌギの雑木林を15年周期で萌芽更新し、伐った木は椎茸栽培に利用している。切り株から出た萌芽が育つにつれて、棲む生き物が変わってくる。

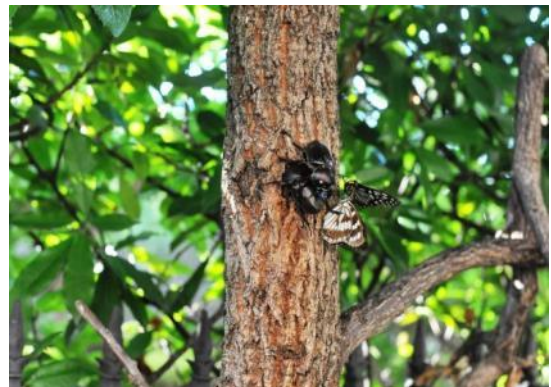
独歩の森も一度伐ると風景は一変するが、そのあと植物が育つにつれて生き物たちが織り成す風景が移り変わっていくのを楽しむことができるだろう。

## 講師のお話より(3)「独歩の森を未来へつなぐために」

「独歩の森」を未来へつなぐためには、①適切な手入れ(萌芽更新、林床の回復)、②維持管理への市民参加、③利用する・楽しむ、という視点が大切である。

とくに、③については、「命が発する音を浴びる(こころとからだの活性化)」「コミュニティの活動の場として活かす」「子どもたちの環境教育に活かす」が重要。

「里山は人を育む」ということをぜひ覚えておいていただきたい。



クヌギに集まる昆虫(神奈川県)

# 見学会と講演会で学んだこと

私たちは、見学会「武蔵野の雑木林の由来と再生を学ぶ」、講演会「日本の里山の魅力と可能性～「独歩の森」を未来へつなぐために～」から多くのことを学びました。

- ①「独歩の森」は、武蔵野台地の里山の一部として人が作った雑木林であり、萌芽更新という方法で循環的に利用していたことです。
- ②里山とは人が手を入れて維持してきた生態系であること、人と自然が共生する空間であること、「里山が人を育む」という考え方が大切だということです。
- ③独歩の森は適切な手入れが必要だということ、しかも市民参加で手入れし、その際「利用する・楽しむ」という視点が大切であることも学びました。

武蔵野の森を育てる会としては、一人でも多くの市民の方々とともに、楽しみながら適切な手入れを行い、「独歩の森が私たち市民とコミュニティを育てている」という感謝の気持ちを忘れずに、よりよい状態で未来へとつないでいきたいと思えます。

## ＜今回の講師 小野泰洋氏プロデュース番組＞

### NHK・BSプレミアム(月～土、朝7:00)「ニッポンの里山 ふるさとの絶景に出会う旅」

人の暮らしと自然が調和し、生き物が共生する日本ならではの美しい空間として、全国にさまざまな里山があります。この番組では、そのような里山のすばらしさを毎朝1か所ずつ紹介しています。

## 武蔵野の森を育てる会の活動

昔から武蔵野に根づいていた豊かな自然を残していくため、境山野緑地(独歩の森)の自然環境の調査、他地域における森(雑木林)の再生事業の見学、小学校や高等学校の環境教育への協力など、さまざまな活動を行っています。

毎月2回の定例作業日には、小さなお子さんから、学生やシニアまで、いろいろな方が境山野緑地(独歩の森)に集まり、みんなで和気あいあいと草刈り・草取りや樹木の世話などを楽しんでいます。

作業はお子さん連れでも大丈夫です。休日の午前の一ときを、身近な森で過ごしませんか。詳しいことは、電話、Eメールで当会までお問い合わせください。

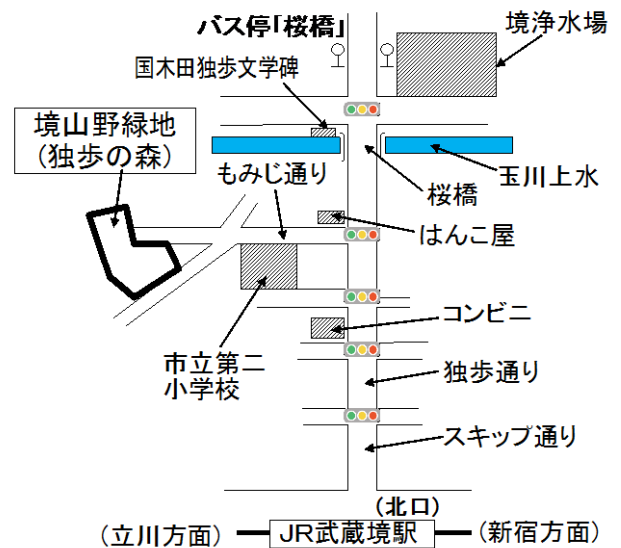


外来種の草取り



第二小学校の授業に協力

## 境山野緑地(独歩の森)の位置



### 【境山野緑地(独歩の森)へのアクセス】

JR中央線武蔵境駅より徒歩10分。同駅北口からスキップ通りを北へ直進、はんこ屋(四つ目の信号)を左折して200m先です。西武バス、関東バスの停留所「桜橋」からは徒歩5分。(武蔵野市境4-5)